



入船だより

横浜市立入船小学校
校長 松本 久美子
学校だより 6月号
令和8年6月1日発行

「本当にいいの？」と考える習慣

校長 松本 久美子

運動会が終わりました。力いっぱい走る姿、気持ちを込めて動きを工夫しながら踊る姿、友達のがんばりに力いっぱい声援を送る姿、どの場面でも子どもたちの輝く姿が見られ、本当にうれしく思いました。

ずっと天気心配で、毎日頻りに天気予報を気にしていました。前日の午前中まで雨が降っていましたが、この先雨雲は来ないと判断し、午後は職員総出でグラウンドの水取りを行いました。前日のボランティアをお断りした保護者の方には申し訳ありませんでした。当日は朝早くから砂を撒いたり地ならしをしたりして何とか開催時刻に間に合わせました。朝は途中から保護者ボランティアの方々に机出しや遊具の安全対策を手伝っていただきました。教職員だけでは間に合わなかったと思います。運動会後の片付けも、たくさんの保護者や地域の皆様にお手伝いいただき、驚くほど早く終わられました。当日にきちんとお礼の気持ちを伝えることができず、失礼いたしました。この場を借りて伝えさせていただきます。小規模校の学校行事は保護者や地域の皆様の協力があってこそ円滑に安全に行うことができるということを改めて実感しました。まことにありがとうございました。

最近子どもたちどうしのかかわりの中で気になることがあります。

「〇〇さんが『やれ』と言ったから（友だちの嫌がることを）やった」

「（実はわざと蹴ったのではなく足が当たっただけなのに）△△さんが蹴ったから

蹴り返した」という言葉がよく聞かれます。



トラブルがあったとき、当事者双方から話を聞いてみると、自分の考えではなく他者または相手のせいで仕方なくやったのだととれる説明が返ってくることが頻りにあります。きっかけは誰かの言動であっても、相手の嫌がることをしたり、暴力を使ったりしたのは「自分」です。自分でその行動を選んだのです。もしも誰かから命令をされたとしてもそれに従わない選択をすることはできたはずです。相手が蹴ったと思ったとしても「痛かったよ。やめて」と言葉で伝えれば「あ、ごめん。わざとじゃなくて足が当たったんだ。痛くしてごめんね」と謝られて収まることもあります。「命令されたから悪いことでも従う」「自分がやられた！と思いついでやり返す」はとても危険な行動だと思います。「自分の行動は本当にこれでいいのか？」立ち止まって考える習慣をつけ、人と上手にかかわることができるようになってほしいと思います。